

平成 16 年 11 月 11 日

各 位

会社名 宇部興産株式会社
代表者名 取締役会長兼社長 常見和正
(コード番号 4208 東証第1部)
問合せ先 IR広報部長 泉原雅人
(TEL 03-5419-6110)

業績予想の修正に関するお知らせ

平成16年10月12日に発表しました平成17年3月期中間業績予想(平成16年4月1日~平成16年9月30日)及び平成16年5月14日に発表しました平成17年3月期通期業績予想(平成16年4月1日~平成17年3月31日)を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成17年3月期中間業績予想の修正(平成16年4月1日~平成16年9月30日)

中間連結業績予想数値の修正

(単位: 億円、%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 中間純利益 |
|------------------------------|-------|------|------|-------|
| 前回発表予想(A) (平成16年10月12日発表) | 2,710 | 90 | 30 | 5 |
| 今回修正予想(B) | 2,723 | 106 | 51 | 23 |
| 増減額(B - A) | 13 | 16 | 21 | 18 |
| 増減率 | 0.5 | 17.8 | 70.0 | 360.0 |
| 前期(平成16年3月期中間)実績 | 2,422 | 51 | 15 | 6 |

(修正の理由)

- ・売上高につきましては、建設資材関連子会社の売上が伸びたこと等により、13億円の増収になる見込みです。
- ・営業利益につきましては、一部の子会社において定期修理の実施等費用の発生が上期から下期にずれ込んだこと、あるいは各種経費削減努力等により、16億円の増益になる見込みです。
- ・経常利益につきましては、上記営業利益の増加に加え、持分法投資損益が改善したこと等により、21億円の増益に、また中間純利益につきましては、18億円の増益になる見込みです。

なお、中間単独業績予想数値の修正はありません。

2. 平成17年3月期通期業績予想の修正(平成16年4月1日~平成17年3月31日)

通期連結業績予想数値の修正

(単位: 億円、%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------------------------|-------|------|------|-------|
| 前回発表予想(A) (平成16年5月14日発表) | 5,300 | 220 | 110 | 50 |
| 今回修正予想(B) | 5,560 | 270 | 160 | 70 |
| 増減額(B - A) | 260 | 50 | 50 | 20 |
| 増減率 | 4.9 | 22.7 | 45.5 | 40.0 |
| 前期(平成16年3月期)実績 | 5,113 | 220 | 151 | 136 |

(修正の理由)

- ・売上高につきましては、カプロラクタム、合成ゴム、建設資材製品、機械関連製品を始め、各セグメントにわたって売上が伸長するため、260億円の増収になる見込みです。
- ・営業利益につきましては、北米アルミホイール事業の回復が計画を下回るものの、化成品・樹脂セグメントで原料高に対する価格転嫁が概ね順調に進んだこと、また機能品・ファインセグメントで販売数量が増加し価格も比較的維持できたこと等により、50億円の増益になる見込みです。
- ・経常利益につきましては、上記営業利益の増加に伴い50億円の増益に、当期純利益につきましては、20億円の増益になる見込みです。

通期単独業績予想数値の修正

(単位：億円、%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------------------------|-------|------|-------|-------|
| 前回発表予想(A) (平成16年5月14日発表) | 2,300 | 120 | 55 | 30 |
| 今回修正予想(B) | 2,470 | 160 | 110 | 70 |
| 増減額(B - A) | 170 | 40 | 55 | 40 |
| 増減率 | 7.4 | 33.3 | 100.0 | 133.3 |
| 前期(平成16年3月期)実績 | 2,270 | 134 | 86 | 90 |

(修正の理由)

- ・売上高につきましては、カプロラクタム、合成ゴム等の売上が伸長することに加え、国内アルミホイール事業連結子会社(ウベオートモティブ(株)、(株)ユーモールド)、電力卸売事業連結子会社((株)ユービーイーパワーセンター)を平成17年1月に吸収合併することにより、170億円の増収になる見込みです。
- ・営業利益につきましては、化成品・樹脂セグメントで原料高に対する価格転嫁が概ね順調に進んだこと、また機能品・ファインセグメントで販売数量が増加し価格も比較的維持できたこと等により、40億円の増益になる見込みです。
- ・経常利益につきましては、上記営業利益の増加に加え、金融収支が改善すること等により、55億円の増益に、また当期純利益につきましては、40億円の増益になる見込みです。

以 上